

都小 研 会 報

・発行所
東京都小学校社会科研究会
東京都板橋区大谷口上町43-1
・発行人 石橋昌雄
・編集人 山田裕

東京大会会場校に期待すること

東京都小学校社会科研究会会長
板橋区立板橋第十小学校長

石橋昌雄



数年前より準備してまいりました全国小学校社会科研究協議会東京大会がいよいよ迫ってまいりました。各学年部会、各会場校ではプレ発表会が終了するといよいよ本番に向けて暑い夏を迎えます。

このような中、5月の都小社研定期総会では、講師の澤井陽介先生から「東京大会に向けて」という講題で ①問題解決的な学習の充実策 ②知識や技能を活用して考え、理解・認識を深める社会科授業像の提案 ③社会科授業の課題 について具体的なご指示をいただきました。これらのご指導をふまえて、大

会当日までの次の課題を達成していきたいと思えます。

①主題と副主題の関連の明確化
今回の東京大会の特徴として、全体や各会場校の副主題は違っても、主題は統一のものとしたことです。つまり、副主題を深めていくと、どのような主題に迫ることができているのか、その点を基調提案や、会場校提案の理論で明確に提案したいと思えます。
例えば、全体主題については地域や社会のことを自ら調べ、考え、表現していくと地域や社会に対する認識が深まっています。すると様々な地域や社会の課題が見えてきて、よりよい社会にしたいという願いが芽生え、社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことにつながります。

②自ら調べ・考え・表現できる子の姿の実現

大会の副主題にあるとおり、調べ・考え・表現しながら問題解決的な学習を通して社会認識を深めることを重視しています。そのためには何を調べさせるのか、何を考えさせるのか、何を表現させるのかを明確にしておかなければなりません。そして、子供が意欲的に調べ、自分の考えを文字や言葉で表現している姿が見える授業を提案したいと思います。

③よりよい社会の形成者となる意識が育まれる教材づくり

子供が地域や社会のことを自分事として切実感をもって考えられる教材づくりに努めます。地域教材を工夫した場合には、その教材が学習指導要領のどこに位置付き、どうしてよりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことにつながるのかという提案ができるようにしたいと思えます。

最後になりましたが、東京大会に向けてご尽力いただいております、各会場校の全体講師の先生、講師の先生方、会場校の先生方、区市町村の研究会の皆様、都小研OBの方々には深く御礼申し上げます。

「勇退役員あいさつ」

あのころ、そして、いよいよ

元東京都小学校社会科研究会会長
前板橋区立板橋第十小学校校長 豆田 啓一

平成十九年、二十年と二期間にわたり都小社研の会長を務めさせていただいたころは、新しい指導要領の告示前で、どう変わるのか教科としての社会科の存続問題もあり、戦々恐々としていたことを思い出します。十年ごとに改訂される指導要領。趣旨や内容を理解し、意図を見極めながらどう趣旨の徹底を図っていくかが社会科研究会の大きな課題でもありました。また、団塊世代の大量退職と重なり、若手教員の大量採用に伴う指導力育成の必要性が大きく叫ばれ始めた頃でもありました。

さらに、都教委が研究員という学校の中核となる教員の育成制度を取りやめた時期でもあったため、専門的に教科等の研究を進めていく教員がいなくなるのではという危惧があり、当然のごとく各研究会が都の研究員制度にちなんだ制度の立ち上げに努めていました。現在、都の研究員制度は復活しましたが、当時、本会でも危機感を持ち、全都から集まる研究推進委員の制度を充実させ、教師道場などで

社会科を学んだ教員を積極的に教科研究の中で活かしていく方向で対応していこうと決めたのを思い出します。また、新しい指導要領の告示に伴う都版の指導計画の作成は本会に課せられた従来からの課題で百二十名を越す研究推進委員が中心になり平成二十二年三月に「平成二十三年度版社会科指導計画」が完成しました。これも多くの方々のおかげでの使命感と強い志があつたればこそだと思います。今、十年前(平成十五年六月)の桑原利夫会長の「カウントダウンとなった東京大会」という小見出しに始まる会報を見えます。実行委員長の梶井貢先生の当日に向けての心構え。小松澤昌人先生、成田秀和先生の全国大会への思い。当時の役員・部長さん方の開催に向けてのコメント等々。大盛会を願う皆さんの思いが今でも文面から強く感じられます。十年を経ていよいよ今年は今全小社研「東京大会」開催の年となりました。開催日まであと五か月。各会場とも最後の詰に入っているやに聞いています。全国から多くの参会者を得て、研究の成果を如何なく全国に発信されますよう願っています。

平成二十五年 各部活動計画

庶務部

部長 不破 淳

東京大会の成功に向けて、各地区研究部との連携を一層深めるとともに、月例研修会、地区委員会、夏季研修会等の運営の充実に努めます。

○月例研修会(十四)

○地区部長・地区委員会(三回)

○役員・地区部長・地区委員の名簿作成、配布

○夏季研修会(八月)の準備

○東京大会運営委員の集約、大会第一日(十月三十一日、全体会)の運営

○箱根合宿(十二月)の運営

○二十六年度総会準備

会計部

部長 中島とし子

平成二十五年度の予算案が総会において承認されました。

昨年度は東京大会に向けてのプレ発表会も行い、研究発表に向けた準備、内容の充実に各会場校も努めてまいりました。

本年度は、いよいよ十年に一度の東京大会です。浅草公会堂での全体会、二日目の各会場校での研究発表が成功するよう、予算執行に努めてまいります。

渉外部

部長 佐藤 強

渉外部では、毎年都内各地区の社会科の研究動向をまとめた「各地区のすがた」や、研究紀要を発行しています。また、全小社研理事(東京)と、関小社研の事務局を担当し、東京大会の成功に向けて準備を進めています。

六月 全小社、関小社理事会出席

七月 「各地区のすがた」発行

八月 夏季研修会参加

十月三十一日 十一月一日 全小社研東京大会参加

三月 「研究紀要」発行

*関小社研会報発行(年二回)

*定期総会案内等OBに送付

事業部

部長 齊藤 涼子

今年度の事業部の活動は、夏季見学会が中心となります。授業に役立つ臨地研修を七月下旬に五回実施します。皆様、奮ってご参加ください。

★夏季見学会★

①石油精製工場見学会

七月二十二日(月)定員六〇名

東燃ゼネラル石油(株)川崎工

広報部

部長 山田 裕

本年度は、秋の東京大会に關連した内容を中心に、皆様に情報提供してまいりたいと考えています。

そこで、例年十二月上旬発行の会報一七五号を十月中旬に発行し、東京大会各会場校の研究の概要について、さらに一七六号では東京大会参加者のご意見やご感想、研究の成果や課題について、発信してまいります。

全小社研

事務局長 宇田川嘉一

さる六月七日(金)、日本出版クラブ会館で第九四回理事会が開催され今年度の組織・事業計画・予算、大会の開催等が承認されました。

1 平成二十五年役員

会長 石橋 昌雄(東京)

副会長 野津 康弘(東京)

鈴木 互(青森)

藤馬 享(神奈川)

島津 健一(石川)

儀満克比古(名古屋)

塩見 優(大阪)

奥村 一成(鳥取)

堀内 壽夫(愛媛)

三田井 裕(沖繩)

倉岡 政美(神奈川)

山岸 悦子(東京)

常任理事 佐藤 繁則(東京)

事務局長 宇田川嘉一(東京)

次長 西脇 裕高(東京)

次岡 孝幸(東京)

赤木 勲(東京)

調研部長 駒野眞理子(東京)

会報部長 山田 裕(東京)

2 全国大会(東京大会)

・十月三十一日(木)

十一月一日(金)

【大会主題】

よりよい社会の形成に参画

する資質や能力の基礎を培う

社会科教育(自ら調べ・考え

・表現しながら社会認識を深める学習を通して)

3 個人研究論文の募集

【主題】

新学習指導要領の具現化を

めざす社会科指導の工夫

・締切 平成二十六年

一月三十一日

4 調査・研究・刊行等

・会報 九〇号、九一号

・各地域の動向

二十五年度版

・研究集録 第四十九号

・個人会員の募集

・年会費 一、五〇〇円

6 大会開催の案内

・第五十一回 東京大会(概要)

・第五十二回 京都大会(案内)

・第二十五年度大会 福岡(案内)

・第二十六年度大会 沖繩(案内)

・第二十六年度大会 沖繩(案内)

調査研究部
部長 駒野眞理子

一 研究の重点

本年度は、十月三十一日～十一月一日に開催される全小社研東京大会に向けて、各会場校のプレ発表会への支援、基調提案並びに各課題提案・授業提案の発表内容の確認を行います。また、各会場校の発表授業の練り上げを、会場校の先生方・各地区から推薦された運営委員の皆さんと共に行っていきます。大会後は、成果と課題を報告書という形でまとめて残すとともに、大会での成果を各地区に還元していくことを研究の重点といたします。

ります。

◇根岸小会場プレ発表会

六月二十一日(金)

◇日本橋小会場プレ発表会

六月二十八日(金)

◇明治小会場プレ発表会

六月二十八日(金)

◇四谷小会場プレ発表会

七月五日(金)

◇板橋第十小会場プレ発表会

(二月に実施済み)

◇大会で提案する授業の検討

各会場校担当の研究推進委員は、運営委員とともに会場校の授業者を支援し当日提案する授業を創り上げていきます。また、各会場校の学年世話人は、助言者校長の指導を受け授業提案の準備を進めます。都小社研に關わる校長が、担当する会場の研究(授業提案づくり・授業力向上)に携わります。

◇課題提案の発表資料作成

各課題提案者が指導助言者の指導を受け、各発表会場校の研究推進委員の助力のもと、課題提案の発表原稿、発表資料を作成します。

三、年間の計画

◇会場校責任者、会場校世話人等連絡会の開催

◇五月十三日(月)

・プレ発表会・東京大会の授業提案について、学習指導案その他の形式について、会場運営委員の割り振りについて

◇東京大会に向けての研修会

八月十九日(月)

◇日本橋小学校

◇八月二十日(火)

各発表会場校

◇研究推進委員会等の開催

◇第一回・六月十七日(月)

・課題提案・授業提案についての共通理解

◇第二回・七月十六日(火)

・夏季研修会の内容決定・運営の確認

◇第三回・九月十日(火)

・各会場校の授業提案について

◇第四回・十月十一日(金)

・大会当日の最終確認

◇第五回・十一月十二日(火)

・全国大会のまとめ

◇第六回・一月十六日(木)

・福岡大会課題提案リハーサル

◇講演会の実施

◇五月七日(火)定期総会

記念講演

「東京大会に向けて」

文部科学省教科調査官

澤井 陽介先生

東京大会に向けて
会場校の取り組み

第一会場

板橋区立板橋第十小学校

本校では、「共に考え、表現しながら社会認識を深める授業の創造」を研究副主題に、参画意識を培う教材開発、自分や社会を見直す「ふかめる」過程の設定、共に学ぶ学習形態、考えを引き出す発問、ノート、評価などを工夫し「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎」へ迫れるようにしました。

第二会場

江東区立明治小学校

本校では研究副主題を「思考力・判断力・表現力」を育てる社会科授業の創造とし、江戸・深川の特色ある教材を開発し研究を進めています。思考力・判断力・表現力の構成要素、育てるための三つの視点(学習問題の工夫・学習活動の工夫・学習評価の工夫)と授業を支える力からのアプローチです。

第三会場

新宿区立四谷小学校

新宿区が整備・推進してきた情報教育のインフラを活用し、江戸の香りを残す「ふるさと四谷」の地域の特色と新宿版コ

ミニニティスクール「地域協働学校」の教育力を生かし、研究副主題を「子どもが自らICTを活用し、社会認識を深める授業の創造」とし、全職員一丸となって研究を進めています。

第四会場

台東区立根岸小学校

本校では、研究副主題「意思決定力を育てる社会科授業の創造」のもと、「まとめる」活動の後に設定した「ふかめる」段階において、これまで学んだことを新たな視点から問い直し、自分の問題として自らの行動などを考えながら意思を決定していく過程を重視した研究と実践に取り組んでいるところです。

第五会場

中央区立日本橋小学校

本校では、考えを深め地域・国土への誇りを育む社会科授業の創造を研究副主題とし、研究を進めています。文化、経済の中心的役割をはたしている日本橋といった地域性をいかした教材開発に取り組み、児童が社会認識を深め、よりよい社会を形成するための参画意識を育む授業づくりを進めています。

平成24年度 収支決算書

都小社研平成25年度組織一覧

1. 収入の部

単位=円

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 会費, 寄付金, 雑収入, 前年度繰越金, その他, 合計.

2. 支出の部

単位=円

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 研究大会および研修会, 調査, 研究用図書, 研究成果刊行, 合計.

次年度繰越金 1,201,617円 - 1,201,185円 = 432円

平成25年度 収支予算書

1. 収入の部

単位=円

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 備考. Rows include 会費, 寄付金, 雑収入, 前年度繰越金, その他, 合計.

2. 支出の部

単位=円

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 備考. Rows include 研究大会および研修会, 調査, 研究用図書, 研究成果刊行, 合計.

1. 役員

Table with 3 columns: 職名, 氏名, 所属校. Lists board members and their schools.

2. 部長・副部長

Table with 3 columns: 役職, 氏名, 所属校. Lists department heads and their schools.

あとがき

ここ数年、都内小学校の研究発表会の案内から社会科の発表を目にするのが少なくなりました。本年の東京大会が都内五会場で開催されることは、各地区の先生方が社会科をより身近に感じ、特に社会科が好きになる若手の先生方が一人でも増えるきっかけになることを願っています。